

豊中少年少女合唱団

第9回定期演奏会



2011年4月23日^土
豊中市立アクア文化ホール



(2011 年4月3日 信長貴富先生をお迎えして)

ごあいさつ

この度の東日本大震災により、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

本日、受付に義援金箱を設置しております。皆様の温かいご支援をお願いいたします。

さて、本日はお忙しい中、豊中少年少女合唱団（豊少）の第9回定期演奏会にお越しくださり、誠にありがとうございます。

豊少は、大人の合唱団である豊中混声合唱団（豊混）の支援の下、2001年に産声をあげました。以来、次の3つを基本において活動が続けております。

- ① 私たちの心を豊かにしてくれる“本物”の歌を歌います
- ② 豊中混声、ママス&パパス(保護者有志)など、大人とも一緒に歌います
- ③ 高い技術力がなくても歌える、深く豊かな音楽性に満ちた曲を委嘱していきます

当初はわずか数人でのスタートでしたが、多くの方々のご理解とご支援により、何とか35名前後を維持する合唱団へと成長し、今年は創団10周年を迎えることができました。

さて、今年の定演の最大の目玉は、豊混との共同委嘱により信長貴富さんに書いていただいた「ゆずり葉の木の下で」の初演です。言うまでもなく、豊少には、信長ファンが大勢います。昨年定演で、信長さん作曲の「ポールバニヤンのパンケーキ」「君うたえよ」「未来へ」を歌いましたが、皆、大喜びでした。そしていよいよ今年は待ちに待った新作を頂戴し、初演の運びとなりました。力作に恥じないよう、精一杯歌います。子どもと大人が共に歌う曲の“スタンダード”になりそうな予感がしています。

また、昨年の「北越戯譜」に続いて、同じく柴田南雄先生の「冬の歌」を豊少のシニア部（中学生以上）と豊混女声が合同演奏いたします。この曲でも、柴田先生の類まれなる筆致にただただ圧倒されるばかりです。なお、昨年7月の宝塚国際合唱コンクールのシアターピース部門に「北越戯譜」で出場し、“銀賞”を受賞することができました。今年も、「マンモスの墓」で出場することが決定しています。

他にも、定番の「三善晃作品」、「ジブリ作品」に加え、今年は「いきものがかり」にも挑戦します。

すべての曲を、子ども達は心を込めて歌い、その感動を皆様にお伝えすることと思います。そして同時に、震災の犠牲者、被災者の方々にも心を寄せて歌いたいと思います。私達は歌の力を信じています。

どうぞ最後までごゆっくりお聴きくださいませ。

なお、来年の第10回記念定期演奏会は、4月15日（日）、同じここアクア文化ホールで開催致します。引き続き、今後ともご支援の程、お願い申し上げます。

豊中少年少女合唱団 指揮者 西岡茂樹

プログラム

指揮 西岡茂樹

豊中少年少女合唱団・団歌

詩・曲 三善 晃

I 三善晃合唱曲集

ピアノ 西岡恵子

- ・小鳥の旅
- ・えびがはねたよ

詩 勝 承夫
詩 吉村徹三

II 合唱のためのコンポジション 第7番 マンモスの墓

詩・曲 間宮芳生

III 冬の歌

詩 新美南吉 曲 柴田南雄

- ・氷雨
- ・霧
- ・牛
- ・綿の話
- ・冬の最後の日暮れに

共演 豊中混声合唱団女声部

—— インターミッション ——

IV ジブリの歌

ピアノ 西岡恵子

- ・借りぐらしのアリエッティ
- ・もののけ姫
- ・風になる（猫の恩返し）

詩・曲 セシル・コルベル
詩 宮崎駿 曲 久石譲
詩・曲 つじあやの

V いきものがかりの歌

ピアノ 西岡恵子

- ・ありがとう
- ・帰りたくなったよ

詩・曲 水野良樹
詩・曲 水野良樹

VI こどもとおとなのための合唱曲集「ゆずり葉の木の下で」

～2011 年度委嘱曲初演～

曲 信長貴富
ピアノ 武知朋子
共演 豊中混声合唱団
ママス&パパス（保護者有志）

- ・あおいあおい
- ・深く澄んだ目が二つ
- ・川
- ・モン・パパ
- ・「ゆずり葉」に寄せるバラード

詩 小舞まり
詩 デ・ラ・メア 訳 瀬田貞二
詩 谷川俊太郎
詩 谷川俊太郎
詩 河井醉茗

I 三善晃合唱曲集

豊中少年少女合唱団は、三善晃先生の曲と共に育ってきました。大人と共に歌う「日本の四季～瀧廉太郎の作品による～」 「葉っぱのフレディ」 「木とともに人とともに」 「島根のわらべ歌」、児童合唱曲集の「風のとおしみち」 「光のとおしみち」 などなど。そして極め付きは、2003年に作詩・作曲していただいた豊中少年少女合唱団・団歌。

これからも三善作品は、豊少のバックボーンとして歌い続けていきます。

◆豊中少年少女合唱団・団歌 三善晃

ともだち 歌おうよ
みんなで 肩を揺らして
大きな樹々が 風を呼ぶようにさ
心のなかでも 揺れるよ
樹々が 風と
昨日と明日のあいだで
不安と勇気のあいだで
それを みんなで 歌おうよ
肩を揺らしてさ

ともだち 歌おうよ
みんなで 手をつないで
小さな飛沫が 波とあそぶようにさ
心のなかでも つなぐよ
飛沫が 波と
昨日と明日のあいだを
涙と笑いのあいだを
それを みんなで 歌おうよ
手をつないでさ

ともだち 歌おうよ
みんなで 胸をひらいて
大事な思いが 夢をつむぐようにさ
心のなかでも ひらくよ
思いが 夢を
明日の明日のむこうまで
希望の光が呼んでいる
それが みんなに 聞こえてる
胸の響きになってさ
胸の歌声になってさ

◆小鳥の旅 勝承夫

はるかな島から 海を こえて
はるかな国から 山を こえて
小鳥の群は わたって来るよ
夜空に 高く 星を うたい
楽しく 森に 林に いこい
小鳥の旅は 幾日 幾月

わたり鳥 わたり鳥
わたしも 夢を見る小鳥
あの空 こえて あの雲こえて
はてなく ひろがる 夢の つばさ

はるかな島へと 海を こえて
はるかな国へと 山を こえて
小鳥の群は わたって いくよ
海辺の町の 軒に わかれ
谷間の枝に ねぐらを のこし
小鳥の旅は 幾日 幾月
ああ 楽しく わたるよ

南の島から 海を こえて
雪降る国から 山を こえて
小鳥の群は わたって来るよ
やさしい春の 花を 慕い
もみじの秋の 木の実を たずね
小鳥の旅は 幾日 幾月

わたり鳥 わたり鳥
わたしも 歌の好きな鳥
希望を こめて 喜び こめて
仲よく さえする 歌の つばさ

南の島へと 海を こえて
雪降る国へと 山を こえて
小鳥の群は わたっていくよ
思い出おおく 胸に秘めて
また来る日まで さよなら 告げて
小鳥の旅は 幾日 幾月
ああ 楽しく わたるよ

◆えびがはねたよ 吉村徹三

えびがはねたよ
夜あけの波に
びびんとはねた
うすうす うすべに
すけてるしっぽ
朝のひかりに
びびんとはねた びん

えびがはねたよ
まひるの波に
びびんとはねた
かもめとあそんだ
ゆめみて さめて
ひげをゆずって
びびんとはねた びん

えびがはねたよ
月夜の波に
びびんとはねた
うすうす うす青
とがったしっぽ
月かげくだいて
びびんとはねた びん

II マンモスの墓

日本合唱界の金字塔とも言うべき間宮芳生作曲「合唱のためのコンポジション」シリーズの中の1曲。

マンモスは自分の巨体を維持するために、寝る間も惜しんで大量に食べ続けなければならない。だからマンモスは大きくなればなるほど、睡眠時間がますますなくなり、その結果、寝不足になって滅んだのだよ、という実に他愛のないユーモラスなストーリーです。しかし実はこの話には隠喩が潜んでいます。

間宮氏は次のように書いておられます。「人間自身自然の一部なのだという事を私達は忘れがちになっている。だから解っていて自然破壊をなかなかとどめ得ないでいる。心の中の自然がこわされては、人間はこの環境問題をのり越えられないだろう。——どうしよう、もっと食べよう…。こうして「マンモスの墓」の詩ができた。」

つまり、マンモスとは現代の“人間”？ 私達も“文明”という名のエサを貪欲に食べ続けて、やがて……。このアイロニーを子供たちに歌わせるという仕掛けが、なんとも心憎い、児童合唱の傑作です。

なお、豊少は、来る7月23日（土）宝塚国際室内合唱コンクールの本選に、この曲で出場することが決定しています。

マンモスの墓

間宮芳生

マンモスの
お墓参りにゆきました
舟のって
電車にのって タクシーのって
それからテクテク歩いて
野をこえ 山こえて
マンモス村の
マンモス寺の
お墓参りに ゆきました

マンモス村の
マンモス寺の
和尚さんの はなし
それは悲しい ものがたり でした

マンモスは
いつでも はらがペコペコで
ひがな一日 草たべた
夜の夜中も 草たべた
ムシャムシャ
ガツ ガツ
ねる間もねずに 草たべた
ムシャムシャムシャ
こんなに大きな からだでは
それでもぜんぜん 足りないよ
おなかがすいて ねむれない
どうしよう
もっと食べよう

それですます 大きくなって
それですます ハラペコで
おなかがすいて ねむれない
どうしよう

もっと食べよう
それですます 大きくなって
それですます ハラペコで
おなかがすいて ねむれない
どうしよう
もっと食べよう
それですます 大きく……

何べん やっても
何時まで やっても
おんなじだ
これじゃぜんぜん 進まない
どうしよう
もう一度

それですます 大きくなって
それですます ハラペコで
おなかがすいて ねむれない
どうしよう
もっと食べよう

ひとつ 日の出で 草をたべ
ふたつ フラフラ 草をたべ
みっつ みんなで 草をたべ
よっつ 夜中も 草をたべ
いつつ いつでも 草をたべ
むっつ ムシャムシャ 草をたべ
ななつ 泣き泣き
やっつ やけくそ

おなかがすいて ねむれない
ねむくて ねむくて たまらない
おなかがすいて ねむれない

一日 二日 三日 四日
一年 二年 三年目

ひとつ 日の出で 草をたべ
ふたつ フラフラ 草をたべ
みっつ みんなで 草をたべ
よっつ 夜中も 草をたべ
いつつ いつでも 草をたべ
むっつ ムシャムシャ 草をたべ
ななつ 泣き泣き
やっつ やけくそ
ここのつ
とお
とおで ととお お 死んじゃった

マンモス村の
マンモス寺の
お墓参りに ゆきました
マンモス村の
マンモス寺の
和尚さんの はなし
それは悲しい ものがたり でした

「マンモスは 何故 ほろんだか」
「そのわけは 寝不足なのです」

とつぱれ

(とつぱれ -方言で"おしまい"の意)

Ⅲ 冬の歌

北九州市の女声合唱団「ムジカ・ヴォーリア」の委嘱、1993年に初演されています。柴田南雄先生が、お亡くなりになったのは1996年、79歳の時ですから、最晩年の作品の一つです。

今回、奥様の純子先生が進めておられるCD/DVDによる『柴田南雄とその時代』シリーズ刊行（フォンテック）の第二期に「冬の歌」が収録されることになり、その演奏のご依頼を豊中少年少女合唱団と豊中混声女声部に頂戴いたしました。正式な収録は、7月10日（日）の豊中混声合唱団第51回定期演奏会（ザ・シンフォニーホール）での演奏となりますが、それに先立ち、まずはこの演奏会で歌わせていただきたいと思います。

さて、柴田先生は、出版譜のノートに次のように書いておられます。

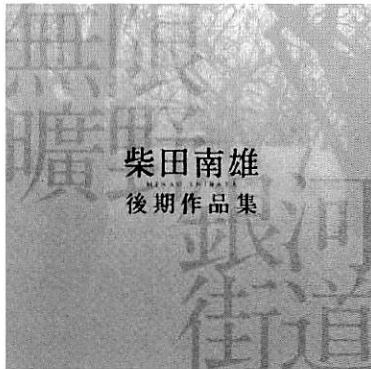
『詩人の新美南吉は、わたくしより2歳ほど年長の人で愛知県半田の生まれ、東京外語学校（今の外語大）の英文科出身ですが、病気がちだったようで、昭和18年に29歳で亡くなっています。この5つの詩は、1939年と1940年の作で、その頃は日中事変のさなかの不安な時代でした。15年ほど前に、わたくしとしては珍しいことですが、民放の子供向けのテレビ番組の、新美南吉原作「狐」の作曲を引き受けたことがあり、それでこの詩人を知ったのでした。』

私たちが新美南吉と聞いてまず思い浮かべるのは小学校の国語の教科書にでてくる「こん狐」でしょう。しかし実は、南吉は、他にも多数の童話や詩を書いています。4歳の時に母を亡くし、8歳の時には実家からも出されて母方の祖母と二人で暮らしましたが、寂しさに耐え切れずすぐに戻っています。そんな幼少のころの記憶は、生涯、南吉の心に愛への渴望をもたらし続けたのではないかと思います。

そして15歳頃から童話や詩を書き始め、やがては学校の教師として、生徒の作文を熱心に指導したそうですが、残念ながら、喉頭結核を患い、29歳でこの世を去りました。死の直前まで童話を書き続けていたそうで、まさに天性の文学者だったと言えます。

そんな南吉の詩を用いて、柴田先生は「冬の歌（作品112）」なる無伴奏女声合唱曲を作曲されました。編成としては、4声から8声までの広がりをもつ、たいへん高度な技術が要求される曲ですが、その響きは格別で、南吉の詩の抒情を見事に描いておられます。この晩年の柴田作品の冴えわたった作曲技法は、続く作品113の、やはり無伴奏児童合唱曲「銀河街道」へと展開していきます。豊少は2007年と2008年に「銀河街道」を歌っていますが、今回の「冬の歌」は、その時の興奮を彷彿とさせます。

ちなみに、2008年のいすみホールでの「銀河街道」のライブは、日本伝統文化振興財団からCDで発売されています。既発売の「柴田南雄とその時代」第一期と合せて、是非、お聴きいただければと思います。



日本伝統文化振興財団 VZCC-1023~24



フォンテック FOCD9470/5

冬の歌

新美南吉詩集『墓碑銘』より

1. 氷雨

氷雨が 村を
ぬらして すぎ、
北に 雲は
象牙のように 光る。

野をくる風が
刃物のようにするどくなった。
こんな 日暮れだ。
わたしの祖父たちは、
はらいそは とおいと、
西の空のあかね、
ランプを といだ。 -

(昭和14年1月8日)

2. 雲^{みぞれ}

まず火屋を研ぎすませ。
古い油をすて、
精製された美しい油をみたせ。
芯を一文字に切れ。
燐光の青さを点じ、
焰の明るい花を咲かせよ。

(昭和14年12月29日)

3. 牛

牛は、重いものを曳くので、
首を垂れて歩く。

牛は、重いものを曳くので、
地びたをにらんで歩く。

牛は、重いものを曳くので、
短い足で歩く。

牛は、重いものを曳くので、
のろりのろり歩く。

牛は、重いものを曳くので、
しずかな瞳で歩く。

牛は、重いものを曳くので、
輪の音をききいりながら歩く。

牛は、重いものを曳くので、
首を少しずつ左右にふる。

牛は、重いものを曳くので、
ゆっくり、たくさん食べる。

牛は、重いものを曳くので、
だまって反芻している。

牛は、重いものを曳くので、
休みにはうっとりしている。

(昭和14年2月13日)

4. 綿の話

火をくべてくれるばあさんから、
綿の話をきいた。
私はあったかい五右衛門風呂にひたりながら、
かまの外へ火が、ちろりちろりと、
出るのを見ながらきいた。

こんげに「スフ」ばかりになっちゃ、
こまるということから話ははしまった。
わしらがむすめだったじぶんによ、
どこの家でも綿をつくったといった。

五月じぶんには種子をまいて、夏中育てて、
九月ごろ笑ませるだといった。
木は二尺ぐらいあるだ、
胡麻ぐらいあるだといった。

実はつばきの実に似ておって、
一本に十もついている。
それがぼっぼとはぜて、あっちにもこっちにも、
まっ白に笑んでいるだといった。

その実をとって、むしろにひろげて乾いて、
糸につむいで織機で織るのが、
わしら若いじぶんの冬中の仕事だったといった。
春になると、それを売ったといった。

いつか、そんなことを
しなくなってしまったといった。
織機もこわして、
縁がわをつくるのに使ってしまった家が多いといった。

こないだ、どこかの弘法さんで、
糸車を買ってきさした人があった。
まだあんなものが売っておるだわいと
思ったといった。

家で織ったもめんはしょうぶだ。
まだ昔のもめんがふとんのうらにのこっておるだが、
あんなものは、ももひきのつぎにあてよか、
なんていっとったといった。

羽のよわったこおろぎが土間のすみで
たえだえに鳴いている夜に、
ばあさんから綿の話をきくのは、
聞くさえあたたかになつかしい。

(昭和 14 年 11 月 14 日)

5. 冬の最後の日暮れに

冬の最後の日暮れに、
南の窓で、
みそさざいの話した白海豹の物語を
読んで。

光がともしくなって、
小さい文字たちが消える。
私は北の海から
帰ってくる。

ああ、窓外の冬木のうれに
真赤に燃える、
炎のように燃えてる
たったひとつの雲よ。

あしたから春になるという。
貧しい私の生活も
暦のように革れ。

(昭和 15 年 2 月 11 日)

Ⅳ ジブリの歌

豊少の定期演奏会になくてもならないジブリの歌を 3 曲。昨年、大ヒットした「借りぐらしのアリエッティ」、ジブリが世界に認められる契機となった「もののけ姫」のタイトルチューン、そして「猫の恩返し」からは、ウクレレを弾きながら爽やかに歌う“つじあやの”のヒット曲「風になる」の 3 曲を歌います。

Ⅴ いきものがかりの歌

子どもから大人まで、幅広い年代層に厚い支持を得ている“いきものがかり”のヒットソングを 2 曲。

「ありがとう」は、昨年の NHK 連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』の主題歌。漫画家水木しげるの妻である武良布枝の自伝が原作です。水木しげるさんは太平洋戦争の末期に、南島戦線に送られ、敵の機銃掃射を受けて左腕を失いました。そして復員してからは、右手だけで漫画を描き続けたのです。「繋がれた右手は誰よりもやさしく ほら この声を受け止めてる」という歌詞が心を打ちます。

「帰りたくなったよ」は、映画『砂時計』主題歌であり、“いきものがかり”のライブの最後で歌われる定番ソングにもなっています。

豊少の子どもたちもまた、“いきものがかり”が大好きなので、きっとノリノリで歌うことでしょう。

Ⅵ ゆずり葉の木の下で

子どもと大人と一緒に歌える合唱曲を、という宿題を西岡茂樹さんから受け取って以来、あれこれ悩みつづ月日が流れました。何を歌うか、どう歌うか、可能性は限りなく広いように思える一方、確信が持てる答えはなかなか見つかりませんでした。

作曲にあたっては、子どもと大人双方の声の色の違いを楽器の音色の違いとして活用するということがまず考えられます。その音色の違いが必然性を持つために「何を歌うか」という点が問題でした。

合唱音楽を見渡したとき、女と男の性差や、年齢差といった個の属性は、しばしば昇華され、抽象として扱われます。つまり、女が男の言葉を歌っても、その逆でも舞台芸術として成立するわけです。子どもと大人という編成に於いても、それぞれの音色を抽象として捉える考え方も可能だと思います。

一方、舞台上の子どもたちと大人たち、その立ち姿、その光景には自ずと「意味」が生まれてくると私には思えるのです。その「意味」を手がかりに今回の作品を構想しました。

変わらないもの。変わりゆくもの。子どもと大人が見上げる一枚の空。見つめる眼。子どもから見た大人。大人から見た子ども。昔は子どもだった大人。やがては父となり母となるかも知れない子どもたち。一本の樹。見上げる眼。変わらないもの。変わりゆくもの。

豊中少年少女合唱団と豊中混声合唱団にはこれまでに拙作をたびたび取り上げていただいたり、演奏を拝聴する機会を得たりして、演奏家・作曲家としてのお互いの性格を知る仲でした。両団の演奏技術をもってすれば技巧的に高度な音楽を作曲することも許されると思いましたが、今回は子どもと大人と一緒に歌うという営みを日常の風景にしたいという願いから、簡潔な響きを目指して作曲した次第です。西岡茂樹さん、豊中少年少女合唱団と豊中混声合唱団の皆さん、このような機会をお与えいただきありがとうございます。

信長貴富



1994 年上智大学文学部教育学科卒業
1994・95・99 年朝日作曲賞（合唱曲）
1998 年奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位
2000 年現音作曲新人賞入選（室内楽曲）
2001 年日本音楽コンクール作曲部門（室内楽曲）第2位
多数の合唱作品のほかに、「Fragments」などの歌曲、「エレジアコ・エレキテル」などの室内楽、また邦楽器のための作品も多い。

1. あおいあおい

小舞まり

空があおいよ
ほんとうだね
どこまでつづくの
わからない
鳥になってさがしてみよう
あおいあおい空の道
空色のはねに
染められながら

雲になって追っかけてみよう
あおいあおい星の道
星色のむねに
風をうけながら

ぼくたちの心のあおが
あおいあおい宇宙の道を
いっしんにかけめぐる

『子どものための少年詩集 2006』（銀の鈴社）

海があおいよ
ほんとうだね
どこまで深い
知らないよ
魚になってもぐってみよう
あおいあおい海の道
海色のせなか
ひらめかせながら

星があおいよ
ほんとうだね
どんなにおいの
わからない

2. 深く澄んだ目が二つ

デ・ラ・メア
瀬田貞二 訳

深く澄んだ目が二つ
耳が二つ、口が一つ、鼻が一つ、
つかむ手の指が十、
動く足の指が十、
手が二つ、腕が二つ、
足が二つ、脚が二つ、
そして心臓が一つ
この心臓から愛がほとばしります。

目が耳にいいます
聞け。
耳が目がいいます
見よ。
口が鼻にいいます
かげ。
鼻が口にいいます
かぎますよ。
心が頭にいいます
おどろけ。
頭が心にいいます
考えよ。

腕と手、
脚と、足は
働き、遊び、立って歩きます。
そして
蜜のように甘い口の
しなやかな小さい舌は、
南北に歯を立て並べて、
ひたすらしゃべり、しゃべり、しゃべりまわります。

『幼い子の文学』（中央公論新社）

3. 川 谷川俊太郎

母さん
川はどうして笑っているの
太陽が川をくすぐるからよ

母さん
川はどうして歌っているの
雲雀が川の声をはめたから

母さん
川はどうして冷たいの
いつか雪に愛された思い出に

母さん
川はいくつになったの
いつまでも若い春とおないどし

母さん
川はどうして休まないの
それはね海の母さんが
川の帰りを待っているのよ

『谷川俊太郎詩集 続』（思潮社）

4. モン・パパ 谷川俊太郎

ぼうやはもらう大きなこいのぼりを
ママはもらう赤いカーネーションを
パパはもらうすっぱらな月給袋を

ぼうやは泣くママの背中で
ママは泣くパパにもたれて
パパはいつも泣くに泣けない

ぼうやは信じるママのやさしさ
ママは信じるパパのたくましさ
パパは信じる——何を？

けれどパパは死んでも云わない
「父の日」をつくれなどとは

『落首九十九』（朝日新聞社）

5. ゆずり葉 河井醉茗

子供たちよ。
これはゆずり葉の木です。
このゆずり葉は
新しい葉が出来ると
入り代わってふるい葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉
こんなに大きい葉でも
新しい葉が出来ると無造作に落ちる
新しい葉にいのちをゆずって——。

子供たちよ
お前たちは何を欲しがらないでも
すべてのものがお前たちにゆずられるのです。
太陽の廻るかぎり
ゆずられるものは絶えません。

輝ける大都会も
そっくりお前たちがゆずり受けるのです。
読みきれないほどの書物も
みんなお前たちの手に受け取るのです。
幸福なる子供たちよ
お前たちの手はまだ小さいけれど——。

世のお父さん、お母さんたちは
何一つ持ってゆかない。
みんなお前たちにゆずってゆくために
いのちあるもの、よいもの、美しいものを、
一生懸命に造っています。

今、お前たちは気が付かないけれど
ひとりでのいのちは延びる。
鳥のようにうたい、花のように笑っている間に
気が付いてきます。

そしたら子供たちよ。
もう一度ゆずり葉の木の下に立って
ゆずり葉を見る時が来るでしょう。

『花鎮抄』（金尾文淵堂）

◆この一年間の活動記録

年月日	場所	タイトル	主な演奏曲目
2010年 4/24(土)	アクア文化ホール	豊少第8回 定期演奏会	信長貴富作品集「ポールバニヤンのパンケーキ」 「君うたえよ」「未来へ」 柴田南雄「北越戯譜」 三善晃「葉っぱのフレディ」他
5/30(日)	豊中市民会館	親子フェスティバル	「風のとおりみち」「となりのトトロ」「ポニョ」
6/27(日)	池田アゼリア ホール	大阪府合唱祭	信長貴富「未来へ」萩京子「きこえてくる」 三善晃「葉っぱのフレディ」より「やがて春」
7/3(土)	ザ・ソフォニーホール	豊混第50回定演 賛助	三善晃「葉っぱのフレディ」 萩京子「きこえてくる」
7/10(土)	アクア文化ホール	豊中市合唱の夕べ	柴田南雄「北越戯譜」
7/18(日)	かつしか ソフォニービルズ	豊混第50回定演 賛助	三善晃「葉っぱのフレディ」 萩京子「きこえてくる」
7/24(土)	宝塚 ベガホール	宝塚国際室内合唱 コンクール	柴田南雄「北越戯譜」 銀賞！
8/1(日)	相愛学園	八月の祈り	尾上和彦「ひろしまレクイエム」 三善晃「葉っぱのフレディ」
8/20(金) ～21(土)	豊中市立 少年自然の家	夏合宿	
10/30(土)	宝塚 ベガホール	アルモニレジュイ コンサート賛助	間宮芳生「マンモスの墓」 池辺晋一郎「森の人々と共に闘う」(シニアのみ)
12/5(日)	アクア文化ホール	豊中市合唱祭	三善晃「雪の窓べで」、「借りぐらしのアリエッティ」 池辺晋一郎「森の人々と共に闘う」(シニアのみ)
12/23(祝月)	長興寺会館	豊少クリスマス会	
2011年 3/28(月) ～29(火)	豊中市立 少年自然の家	春合宿	
4/3(日)	池田コミュニティ	豊混合同練習	信長貴富先生来団
4/23(土)	アクア文化ホール	第9回定期演奏会	

◆今後の活動予定

年月日	場所	タイトル	主な演奏曲目
5/5(祝木)	阪急イングス	ゴールデンウィーク ミニコンサート	「ありがとう」「帰りたくなったよ」「ジブリ」
6/12(日)	SAYAKA ホール	大阪府合唱祭	間宮芳生「マンモスの墓」 信長貴富「あおいあおい」寺嶋陸也「未来へ」
7/9(土)	アクア文化ホール	豊中市合唱の夕べ	未定
7/10(土)	ザ・ソフォニーホール	豊混第51回定演	信長貴富「ゆずり葉の木の木の下で」 柴田南雄「冬の歌」(シニアのみ)
7/23(土)	宝塚 ベガホール	宝塚国際室内合唱 コンクール	シアターピース部門本選 間宮芳生「マンモスの墓」
8/7(日)	相愛学園	八月の祈り	尾上和彦「ひろしまレクイエム」
8月中旬		夏合宿	
10月下旬	中央公民館	公民館祭り	未定
12/4(日)	アクア文化ホール	豊中市合唱祭	未定
12/23(祝金)	長興寺会館	クリスマス会	
2012年 3月下旬	豊中市立 少年自然の家	春合宿	
4/15(日)	アクア文化 ホール	豊少第10回 記念定期演奏会	これまでの委嘱曲、10回記念委嘱曲など 10年間の集大成をします 是非、聴きにきてください！

メンバーからのメッセージ（五十音順）

●浅井詩乃（小4・Mez）

わたしは定演は三回目です。最初の定演はとても緊張すぎて、歌うのに必死でした。でも二回目のときは、みんなに歌を聴いてほしい、どれだけ頑張ったのかをお客さんにわかってほしいと思いました。いよいよ、今回の三回目！もう緊張なんかしません。私は、歌の意味をお客さんに伝えたいという気持ちでいっぱいです。

なかでも「ゆずり葉に寄せるバラード」の歌は、ピカイチです。とても難しく、言葉をはっきり言わないと、お客さんに伝わりません。だから、今、私はとても頑張っています。ゆずり葉の曲は、大人の豊混さんと一緒に歌う曲なので、ハーモニーをあわせるのがとてもむずかしいのです。でも、私は、ゆずり葉の全5曲が大好きです。

その中の「あおい、あおい」という歌は、お母さんとおしゃべりしてる感じで覚えやすかったし、「川」は、かわいらしく歌うのが一番です。「ゆずり葉」は綺麗なメロディーで好きな場面がたくさんあります。

さあ、みなさん、豊少と一緒に、ゆずり葉の木の下で、ゆずり葉のハーモニーのおしゃべりを楽しみながら、ゆずり葉の木を見上げてみませんか？

●石川 悟（小2・SOP）

ぼくが好きなきょくは「モン・パパ」です。どうして好きかというと、男せいが「ンパパ」とくりかえすところと「Hum・Hum・Hum」とハミングするところがおもしろいからです。

●今西梓（大1・ALTO）

みなさん!!ようこそ！豊少の第9回定期演奏会へ♪

今年は、新しいメンバーがたくさん増え、豊少は去年よりもさらににぎやかで楽しい豊少にパワーアップしました!!そんな今年の定期演奏会、私は、第5ステージの信長先生作曲の『ゆずり葉の木の下で』がすごく好きです。私がこの曲をはじめて聞いた時、すごくあったかさに包まれて心がホカホカしました。

今回の定演で私は豊少を卒団します。最後の最後までみんなと楽しく笑顔で歌いきりたいと思います。

どうぞ楽しんでいってください♪

●うえむらめい（小2・SOP）

みなさんへ。

この合唱団はおもしろいです。

きょくの中で一番大好きなのは川というきょくです。ほんとうにきれいですよ。

みなさんはどのきょくが好きでしょうか？

今日のうたはみんなが気に入るうたがたくさんあるのでおたのしみしてくださいね。

今日はきてくださってありがとうございました♪

●大家広平（小3・ALTO）

ぼくは、2回目のえんそう会です。

きょうは、入団したばかりで、ちょっとしかえんそう会に出られなかったから、あんまり歌えなかったけれど、これまで、いっぱいれんしゅうしたから、今年の本番は、いっぱい歌いたいです。

ジブリの「かりぐらしのアリエッティ」は、えいごがむずかしいけれど、れんしゅうすると上手になりました。ねこのおんがえしの「風になる」は、1番と2番がまちがえや

すいから、むずかしいです。ジブリは、「風になる」だけ明るい曲なので、元気よく歌います。

「マンモスのはか」は、もどるところが、なかなかおぼえられません。

「ゆずりはの木の下で」の「あおいあおい」は、ことばがへんなことばになってしまう時もあるので、むずかしいです。「ふかくすんだ目がふたつ」は、ふたつとひとつがまちがえたりする時もあるので、気をつけて歌います。「川」は、「どうして？」と聞くときのかんじで歌います。「モン・パパ」は、さいこの61しょうせつからがむずかしいです。「ゆずりは」は、さいしょの文字を、大きな声で歌うので、聞いてください。

●大澤千帆（小5・ALTO）

わたしが一番好きな曲は「ゆずり葉の木の下で」の「モン・パパ」です。「モン・パパ」は、音やリズムがおもしろい感じで、お父さんの「うすっぺらな月給ぶくら」という歌詞もおもしろくてとても楽しい曲です。次に好きな「あおいあおい」は、空・海・星を思い浮かべながら気持ちよく歌える曲です。

今回の定演では他にもカワイイ曲、キレイな曲がたくさんあります。皆さんも楽しんで聞いてください♪

●大澤菜月（中3・ALTO）

私が今回の曲の中で一番好きなのは、「ゆずり葉に寄せるバラード」です。この曲を豊混さんと歌うと、大人の人のやわらかい声に子供の声がかかって、とても気持ち良く、優しい気持ちになれます。歌詞もとても良くて、「私たちはたくさんのものを譲り受けて生きているんだな」と感動しました。この気持ちや感動が皆さんにも伝わるように、心を込めて歌います。そして、是非優しい気持ちになって帰って下さい♪ みんなで歌の世界を楽しみましょう。

●大竹沙結梨（中3・MEZ）

私は入団してから、この4月で8年目になります。

最近は小さい子がたくさん入って来てにぎやかです!!でも、シニアだけの練習の時は、難しい曲に真剣に取り組んできました♪

今回も「ゆずり葉の木の下で」と「冬の歌」の曲を通して、豊混の皆さんと歌えて嬉しいです。メイン曲である「ゆずり葉の木の下で」の曲は、どれも好きですがその中でも『「ゆずり葉」に寄せるバラード』が特に好きです♪命が引き継がれていくことや、大切さを歌っています。

シニアの曲は、音程が難しかったのですが、自主練習を繰り返して頑張りました。

中学生生活が忙しい中でも合唱を続けてこられたのは、団員みんなのおかげです(*^-^*) 今までの成果を、聴いて下さるお客さんに伝えられるように、精一杯頑張ります!!

●奥本真彩（小3・SOP）

今年の1月から豊少に入りました。知らない人ばかりではじめはドキドキしたけど、おねえさんたちがみんなしんせつでやさしくしてくれるので、れんしゅうに行くのが楽しいです。れんしゅうしている曲の中でわたしの好きな曲は「風になる」です。

わたしのゆめは、パティシエールになることと、タカラジェンヌになることです。

ならいごとや、遊びたいことがいっぱいあって いそがいけど、大きな声をだして うたえるように いっしょうけんめい れんしゅうがんばります！

●河中彩子（大1・SOP）

私にとって今回の定期演奏会は豊少団員として出られる最後の演奏会です。私は豊少が創立された時から所属しています。たくさんの素敵な歌を歌って、友達もたくさん出来ました。自分が生きてきた半分のこの合唱団と関わって辛い事も悲しい事もあったけれどそれ以上に嬉しい事や楽しいことがたくさんありました。大好きな豊少を卒団するのは寂しいけれどその反面少し誇らしくもあります。高2の時にガールスカウトでミャンマーへ行ったのがきっかけで、私は歌の持つ力が本当に大きいことを知りました。そして3月には東日本で大きな地震があり、今こうして歌えていることは当たり前なことではないのだと改めて思いました。なので歌える事に感謝して、精一杯歌って多くのお客さまに歌を届けたいです！

●鎌田笑美花（中1・SOP）

今回の定期演奏会で、特に聞いて欲しい曲が2つあります。1つ目は、『モンパパ』です。この曲はすごく楽しい曲なので、お客さんにその事が伝わるように、笑顔で楽しく歌いたいと思います。
2つ目は、シニアと豊中混声合唱団の女性の方で歌う「冬の歌」の『雲』です。私は、この曲が「冬の歌」の中で一番難しいと思っているので、今までの練習の成果が出せるように、頑張って歌うので聞いて下さい。

●北村 霞（中3・ALTO）

私は昨年、の定演を見て入団したので、今回が初めての定期演奏会出場になります。「マンモスの墓」は、夏、豊中混声合唱団さんの定期演奏会の頃からジュニア、シニア共に練習しているので、私的には自信があります！「冬の歌」はとても難しい曲ですが、ソプラノ・アルトの声が合わさると、とてもきれいな音になります。「ゆずり葉の木の下」は豊中混声合唱団と一緒に歌います。優しい感じのとてもきれいな曲や所々笑えるようなおもしろい曲があるので楽しんで聴いて下さい。

●北村 堇（小6・SOP）

私は2回目の定期演奏会出場になります。今回は「ジブリ」「ゆずり葉」「小鳥の旅」「えびがはねたよ」を唄います。この中で一番好きなのは「ゆずり葉」です。どれもむずかしい曲なのでたくさんたくさん練習してきました。がんばって歌います。

●窪内一徳（小4・MEZ）

僕は、妹と二人で3月に入団したばかりで、今回は初めての演奏会になります。音楽が大好きで、楽器もピアノとギターを習っています。演奏会では、どれも好きな曲ばかりですが、一番は「モン・パパ」です。とても楽しくて何度歌っても笑顔になります。そして、パパがかわいそうになります。頑張って心を込めて歌いますので楽しんで帰ってください。

●窪内弥来（小1・SOP）

3月におにいちゃんと合唱団に入ったばかりですが、やさしいお姉さんに囲まれて楽しく歌っています。わたしのいちばんのお気に入り曲は「あおいあおい」です。えんそうかいまでの毎日、朝起きたらこの曲をうたうのが習慣になっていました。丸い口にして「あお〇いあお〇い」と歌うのが楽しいです。1年生になったので、きぶんもおねえちゃんになってうたいます。

●駒谷なな子（小6・MEZ）

私は、去年8月に合唱団に入団したので、定期演奏会はこれが初めてです。なので、緊張していると共に、うれしさも山々です。演奏会を迎えるにあたって、頑張ってきたことは、私が歌うメゾのパートは、人数が少ないので、大きな声を出すこと、そして、歌の歌詞を覚えることです。とても長い歌や繰り返しも多くて大変でした。そうやって、私が頑張ってきた目的は、「お客さんに楽しんでもらうこと」です。なので、皆さん、楽しんでいてください。

●坂田秋津（小5・SOP）

ぼくは、1月に入団しました。ぼくが、合唱をしたい理由は、みんなで歌を合わせるときれいに聞こえて楽しいからです。好きな曲は「えびがはねたよ」です。なぜかという、歌詞がおもしろいからです。だから、この曲を一番がんばりたいです。練習でがんばっていることは、口を大きく開けて、声を大きく出すことです。だから、そこをみてほしいです。演奏会に望む気持ちは、緊張するかもしれないけれど、楽しくしっかりと歌いたいです。がんばります！

●白石若奈（中2・SOP）

私は1月に入ったばかりで今回の定期は初めてです。でも頑張って練習したりCDを聞いたりしました。だからその成果を皆さんに聞いてほしいです。今回の歌は私的にとても綺麗だし難しい歌でもあると思います。でも皆で頑張って練習したので難しくてもちゃんと歌えます！練習した成果を皆さんに聞いてほしいです。

●水津香緒（中1・SOP）

ゆずり葉は、豊中混声合唱団のみなさんと歌います。初めは、あまり歌えず、楽譜をずっと見ていることが多かった。練習も大変で、家でも練習をしていました。でも、歌っていくにつれて、だんだん、ゆずり葉が好きになっていきました。

冬の歌は、すごく難しく練習がしんどかったです。全部難しかったけど特に、綿の話が難しかったです。難しく、初めは豊混のみなさんにつられながら歌っていました。

『一人で歌え』って言われたら絶対歌えませんでした。あまり自信がありませんでした。私は、『しっかり歌わないと！』と思って一生懸命練習しました。車の中で聞いたり、ピアノを弾きながら音程を確かめたり…。練習をしていて、わからなくなって、嫌になった時もありました。そして、少しずつ歌えるようになった？少しずつ自信が出てきました。綿の話もだいたい音程をとれるようになったし、他の曲も初めに比べたら、できるようになりました。練習して、【ゆずり葉】も【冬の歌】も、いい歌だと思いました(*^o^*)

●水津早智（中2・SOP）

中学生になって、部活に参加しようと思うと、やっぱり合唱に参加できなくなります。けど、できるだけ合唱に行けるようにしています。

冬の歌はとくに、難しくて慣れませんが、精一杯歌うことを頑張りたいです。

ゆずり葉は、わたしのとても、好きな曲なので、笑顔で楽しく歌えたらなと思います。

●高原希美（小6・SOP）

私は引っ越ししてきて去年入団しました。今日が初めての定演になります。たくさんの曲の練習は大変でしたが、たくさんの学校の違うお友達もできました。今日歌う曲は楽しく、素敵な曲ばかりです。特に私は「ゆずり葉に寄せるバラード」が大好きです。歌詞を読んだだけでも感動してしまいます。たくさんの人の前で歌うので緊張すると思います。不安もありますが、頑張って歌います。いろいろな人に想いが伝わればいいです。

●田村有羽（小5・SOP）

私は、豊少に入ってから初めてのステージです。とっても緊張するけれど、練習の成果を十分に発揮したいと思います。私は豊少に入ってから毎日が楽しく、「早く豊少（の練習）に行きたい！」とずっと思っています。本日の定演で唄う歌の中で1番好きな曲は「猫の恩返しによる『風になる』」です。理由は、この歌はとても唄いやすく歌詞もすぐ覚えられました。あとは、「いきものがかり」です。初めは、全く知らなくて正直「いきものがかり」って何？と思いました。でも豊少の皆と歌っていたら段々覚えていきました。皆さんも良かったら豊少に入ってみてください！！待ってま〜す！！

●多藝愛理（中1・ALTO）

皆さん、第9回定期演奏会に来ていただきましてありがとうございます☆
今回、歌う曲の中で私が気に入っている曲は、「ゆずり葉の木の下で」と言う曲です♪ 豊混の皆様と一緒に歌うことができ、私はとても嬉しいです♪(^▽^)/
あと「冬の歌」と言う、とても難しい曲がありますが、遅くまで練習したり高校生のお姉さんに教えてもらって、ここまで成長しました(^^)笑
今年の定演も、楽しんでくださーい(+´▽`)

●塚 夏紀（小2・SOP）

私は、今年の1月に合唱団に入っただけです。合唱祭で豊少のみんなが歌っているのを見て聴いて私も一緒に歌いたいと思いました。私にとって、初めての演奏会楽しみです。ちょっとドキドキもします。
優しいお姉ちゃん達に色々教えてもらいながらの練習は、とても楽しいです。息づきをするところを間違えないように気をつけながら歌います。

●西岡彩音（中2・MEZ）

今年、豊少は創団から10年目を迎え、定期演奏会は第9回にまでなりました。中学生になってから、毎週授業の後に遅刻で参加したり、部活のコンクール前に休んだり、たくさん迷惑をかけてしまいました。また今回歌う曲は、例年にも増して難しく、なかなかうまく歌えませんでした。でも、たくさん新しい人が入団してくれて、新鮮な気持ちで練習もがんばることができました。
今回も、豊混の方と一緒に歌ったり、信長貴富先生に作曲して頂いた「ゆずり葉の木の下で」など、さまざまなことに挑戦します。豊少らしく、元気に仲良く頑張るので、ぜひ最後までお聴き下さい。

●沼尾翔子（中3・SOP）

私は入団したばかりなので今回が初めての演奏会です。私が通っている学校のコーラス部はあまり活動していないので、もっとたくさん歌いたいと思い豊少の体験に行ってみることにしました。
はじめて一緒に歌ったときは、みんな声がすごくきれいで驚きました。私も、もっときれいな声で歌えるようになりたくて即入団を決めました。たくさん練習があって大変ですが、たくさん歌えることを嬉しく思っています。いままで大人数でハモったことがなかったので、慣れないことが多いですが、これからどんどん歌って慣れていきたいです。初めての演奏会ですごく緊張しますが、楽しんで歌いたいです。

●野添円翔（中3・MEZ）

私は、今回の定期演奏会で6回目の出演となります。今までたくさんの曲をやってきました。今回は、『いきものがかり』の曲にも挑戦し、新しい経験もできました。信長先生が作曲された『ゆずり葉の木の下で』は私の好きな曲です。信長先生の曲はもともと好きで、今回歌えることができて嬉しいです。
豊少には今年、団員がたくさん増えて大変だったけれど、頑張って歌うので最後までよろしくお願いします。

●濱口櫻子（小4・SOP）

わたしは、定期演奏会に出るのは、5回目です。一番好きな曲は、「ゆずり葉の木の下で」です。なぜなら、歌うのはむずかしいけれど、やさしくて、ゆったりした曲だからです。「ありがとう」は前から好きで合唱で歌ってみたい、と思っていたので定演で歌うと聞いて、とてもうれしかったです。歌うのが楽しみです。わたしは、クリスマスに母と、ろう人しせつにボランティアコンサートに行きました。おじいちゃん、おばあちゃんたちは、とてもよろこんで、「また来てね」と、え顔であく手して下さいました。歌うことってすばらしいな、と思いました。心をこめて、みんなが元気になったり、やさしい気持ちになれるように、歌いたいです。

●林あかね（中1・SOP）

本日はお忙しい中、来て頂いてありがとうございます。私にとって4回目の定期演奏会ですが、今までの中で一番むずかしかったです。特に『冬の歌』は豊混の女性の方々と一緒に練習してきましたが、音は外れるし、リズムも難しく全然わかりませんでした。しかしこの歌はきれいにそろうととてもすてきな歌になります。お客様の前でもきれいなハーモニーで歌えるととてもうれしいです。今年の定期演奏会も成功できるようにがんばります☆

●福井那奈（小6・ALTO）

私は姉と一緒に、年中の時に入団し今年で8年目になります。
今回私が楽しみにしている曲は豊混さんと一緒に歌う「ゆずり葉の木の下で♪」です。面白い曲、楽しい曲、おかしな曲・・・いろんなパターンがあります。その中で私が一番好きなのは「ゆずり葉によせるバラード」です。ゆったりして心地よくなれるとてもいい曲です。信長さんに作っていただき、今回が初演なので心を込めて歌います☆
どうぞお楽しみに！！（^^）

●福井里歩（中3・MEZ）

ピアノも歌もサックスもギターも大好きな、中学3年生です*

私が今回の定期演奏会の中で1番好きな曲は、「ゆずり葉によせるバラード」です。歌詞もすごく深くて、なにより伴奏がすてきです♪ 豊少のみんなで歌うのも楽しいけど、豊混さんたちと歌うと、今まで知らなかったメロディが発見できたり、テノールやバスの男性の方たちのおだやかで安心する声に囲まれて歌うことができます。

豊少の団員になって、はや8年目☆ いつのまにかシニアとして豊少で歌っているのが、とても不思議な感じです。今回の定演ではそんな豊少の成長も一緒に見ていただけたらいいと思います♪どうぞ、最後までごゆっくりお聞きくださいね*

●前田萌衣（高3・ALTO）

私が豊少に入団したのは7年前です。たくさんの子が声をかけてくれて、見学に行った日からすっかり団員になった気分でした(^-^*) 誰とでもすぐに仲良くなれて、大家族のようです。豊混の方々も、とても優しく一緒に歌うのがいつも楽しみで楽しみで仕方ありません!

今日は信長先生の「ゆずり葉の木の下で」を委嘱初演しますが、ゆずり葉の木とは、新しい葉が芽生えてから古い葉が落ちるといって、人間のような木です。古い葉が新しい葉へ命をゆずるように、大人が造り上げてきた世界を子どもへゆずり、子どもは次の世代のためにそれをより良いものにしなければならない、この曲はそんな大人と子どもの愛を歌っています。客席のみなさんだけでなく日本中、世界中のみなさんに私たちの歌声が届くよう、そして東日本大震災で被災された方々の復興へ願いを込めて歌いたいと思いますp(^-^*)q

●牧口こころ（高2・ALTO）

私たちの定期演奏会も第9回目を迎えました! 来年には記念すべき第10回を迎えます! 今年も第1ステージから第5ステージまで厚みのある内容です。その中で、私が一番好きな曲。それは第5ステージのこどもとおとなで歌う「ゆずり葉の木の下で」です。なぜなら子どもだけで歌う曲と大人も交えて歌うのとではスケールの大きさが違うからです。ぜひそのハーモニーのスケールの大きさを今日このアクア文化ホールで体感して欲しいと思います。どの曲もとても素敵ですが特に最後の「ゆずり葉に寄せるバラード」は最高な盛り上がりを見せます。心暖まって頂けたら嬉しいです! この曲は信長高富さん作曲で豊少が初めて歌う曲でもあるのでお聞き逃しなく!!

その他にもマンモスの墓とゆう面白おかしい曲から絶妙なハーモニーがうみだす「冬の歌」、そして毎年恒例のジブリまで多種多様な歌を歌います。私たちのステージを一杯楽しんで帰ってくださいね♪私も一杯楽しんで歌いたいと思います。

また3月に東北関東大地震が発生して今まだ大変な状況にあり、私達と同じ年代の人を始め沢山の人が心身ともに傷ついています。だから今元気で歌うことができる私達は今この時、精一杯の歌声を届けたいと思います。PRAY FOR JAPAN!

●宮本梨理花（中2・SOP）

定演は私たちにとって1年に1度の大使台!!!

去年から、徐々に小さい子も増えて私はシニアの自覚をもつことができました★

団が大きくなると共に私も成長できてるのかなと不安もありますが、きっと去年よりパワーアップした私たちを見てもらえると思います(^-^*)v 曲も楽しいのが多く私はドキドキ・ワクワクして歌っています。その気持ちが皆さんに届くように精一杯頑張りますo(^-^*)o

●矢熊 歩（中1・SOP）

今日は、演奏会に来てくださり、ありがとうございます。私は今年からシニアなので、「冬の歌」を歌います。正直言って、「冬の歌」は音程がとても難しいので、苦手です。二人ぐらいで歌うところもあるし、責任重大です。二人ぐらいで歌うところがあるのは4番目の曲の「綿の話」で、場所は「春になるとそれをうったといった」です。逆に好きな曲は「ゆずり葉の木の下で」の「ゆずり葉」に寄せるバラードです。メロディーがきれいで大好きです。それに音程もそこまで難しくないので、自信を持って歌えます。

苦手な曲も好きな曲もたくさん練習したので、聴いてください。私が歌うところも、他の人が歌うところも聴いてください。どうぞ最後まで楽しんでいってください。来年は10回目の定期演奏会なので、ぜひ、来てくださいね。

●山口 藍（小4・SOP）

定演は今年が初めてでドキドキします。

私は楽しいリズムが好きなので猫のおんがえしやゆずり葉のき、モンパパが好きです。あおいあおいや深く澄んだ目が二つはメロディが難しいので家ではピアノで確かめながら歌いました。

一月から入団しましたが、歌うことと合唱は楽しいです。これからも頑張ります。

新入団員大募集! 定期演奏会後の今が一番入団に適した時期です!

練習日: 毎週土曜日 13時~16時 場所: 曽根の中央公民館ほか

連絡先: 西岡 (0797-88-1890)、牧口 (06-6858-0252)

E-mail: toyonakabgc@gmail.com

見学会のお知らせ!

4月30日(土)13時~見学会を開催します。 どうぞお気軽におこしください!

場所は、曽根駅前の中央公民館4階、多目的ホールです。

準備の都合上、事前にご連絡をいただくとありがたいです。

豊少のホームページを見てくださ~い!

<http://homepage1.nifty.com/nishioka/toyo/>

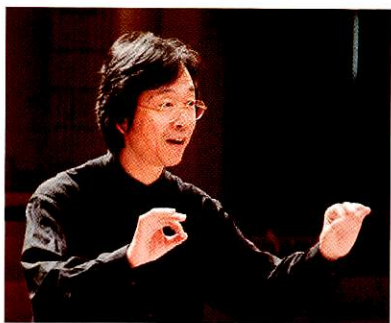
豊中少年少女合唱団

検索



～ プロフィール ～

西岡茂樹（にしおか しげき）・・・ 指揮



1955 年兵庫県生まれ。高校時代から合唱と指揮を始め、その後、大阪大学混声合唱団で3年間に亘り学生指揮を務める。

卒業後は豊中混声合唱団に入団し、作曲家の三善晃氏、高田三郎氏、柴田南雄氏、さらに合唱指揮者の田中信昭氏、須賀敬一氏との出会いと師事により合唱観と活動軸を形成してきた。

指揮活動の最大の関心は、『世界に誇ることができる日本固有の合唱芸術の創造』にあり、主として現代日本の創作家の意欲的な作品をとりあげ続けている。これまでに三善晃「伝説」・「詩の歌（女声篇）」「葉っぱのフレディ」をはじめ、池辺晋一郎、一柳慧、鈴木英明、高田三郎、寺嶋陸也、

新実徳英、萩京子、松下耕、山岸徹、矢田部宏の諸氏等への委嘱初演を成功させている。

また近年、『大人と子どもが共に歌い合う合唱』にも注力し、委嘱活動を推進している。

現在、他に、豊中混声合唱団、女声合唱団あい、女声合唱アルモニレジュイ、女声合唱団 Stella、関西大学グリークラブ等で指揮を務める他、客演依頼も多く、幼稚園から熟年までの幅広い年齢層をカバーしている。関西合唱連盟理事、大阪府合唱連盟理事、日本合唱指揮者協会関西支部委員、奈良産業大学教授。

E-mail shigeki.nishioka@nifty.ne.jp URL <http://www.nara-su.ac.jp/~nishioka/music.htm>

西岡恵子（にしおか けいこ）・・・ ピアノ、合唱指導



中学・高校で合唱を経験し、神戸女学院大学で声楽を専攻。卒業後、ヤマハ音楽教室 講師、自宅でピアノ指導などを行うが、合唱が恋しくなり豊中混声合唱団に入団、パートリーダーなどを務める。現在、豊中混声ヴォイストレーナーの児玉祐子氏に師事。女声合唱団 Stella ヴォイストレーナー。

♪今年も、長く豊少を盛り上げてくれたメンバーが卒団します。でも、たくさんの新しいメンバーが入団してくれました。顔ぶれは変わるのに、みんな益々仲良く、豊少はパワーアップして行きます。まるで、ゆずり葉の木のように。私は、葉っぱたちのパワーをもらいながら、皆が元気に伸びていけるようしっかりとした幹でいたいと思います。さて、豊少の大きな葉っぱたちは、春から豊混の新しい葉になります。これもまた楽しみです。

武知朋子（たけち ともこ）・・・ ピアノ



京都市立堀川高校音楽科（現 京都市立音楽高校）、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。ミュンヘンにてM・シュリューター、カールスルーエにてW・ヤーンの内楽マスターコース修了。その他ミラノ、ウィーンにおいても研鑽。1995 年、友愛ドイツ歌曲コンクールにおいて最優秀伴奏者賞受賞。2003 年トスティ歌曲国際コンクールにおいてトスティ・ピアノ賞受賞。第17回京都芸術祭において最優秀協演賞受賞。近年は声藝舎オペラのアンサンブルピアニストとしてヨーロッパ公演に参加。

豊中混声合唱団第48回定期演奏会にて新実徳英作曲「宇宙になる」を、大阪大学混声合唱団第50回定期演奏会にて一柳慧作曲「未来へ」を、いずれも西岡茂樹の指揮によりピアノ伴奏で初演している。

OG スタッフ 中井靖子（豊中混声アルト）&河中季子（豊中混声ソプラノ）



♪豊少を卒団してもなお、スタッフとして団員とうたえることを幸せに思います。今日は多くの合唱曲にチャレンジしますが、とりわけ初演する「ゆずり葉に寄せるバラード」には、言葉にならないおもしろい感じがたくさん詰まっています。トヨコンの手から豊少の手へ——おとなとこどもの深い絆を、歌声でお伝えできればと思っています。（靖子）

♪豊少は、いつも元気いっぱい笑顔溢れる練習をしています。子ども達は合唱を通して、歌うことの幸せ、協力すること、思いやる心、ハーモニーを合わせる嬉しさ、他にも様々な感情を学びながら定期演奏会を迎えました。今日は、そんな子ども達からエネルギーを受け取って下さい。きっと終わる頃には、心がホッと、温かくなりますよ。（季子）

ソアラ



河中	彩子	大 1
沼尾	翔子	中 3
白石	若奈	中 2
水津	早智	中 2
宮本	梨花	中 2
鎌田	笑美花	中 1
林	あかね	中 1
矢熊	歩	中 1
北村	董	小 6
高原	希美	小 6
坂田	秋津	小 5
田村	有羽	小 5
濱口	櫻子	小 4
山口	藍	小 4
奥本	真彩	小 3
石川	悟	小 2
植村	芽以	小 2
塚	なつき	小 2
窪内	弥来	小 1

メソアラ

大竹	沙結梨	中 3
野添	円翔	中 3
福井	里歩	中 3
西岡	彩音	中 2
水津	香緒	中 1
駒谷	なな子	小 6
浅井	詩乃	小 4
窪内	一徳	小 4



アルト



今西	梓	大 1
前田	萌衣	高 3
牧口	こころ	高 2
大澤	菜月	中 3
北村	霞	中 3
多芸	愛理	中 1
福井	那奈	小 6
大澤	千帆	小 5
大家	広平	小 3

